

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式							
KE401207		国際貿易論特研 (International Trade Advanced Research)															
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	1.2	経済学研究科 博士前期	後期	月3	日本語			単独							
担当教員	氏名 柴田 茂紀 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715																
授業の概要	理論・政策・歴史など幅広い観点から、現在の「グローバル経済を見る眼」を養う。																
具体的な到達目標																	
DP等の対応(別表参照)											1	2	3	4	5	6	7
目標1 現代に至る国際貿易システムの変遷を理解できる。																	
目標2 國際経済に関する問題点がいかに解決されてきたのか、または解決されずに残されているのか分析する。																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)												5	5				
授業の内容																	
1 ガイダンス																	
2 国際貿易の理論1(比較優位と絶対優位)																	
3 国際貿易の理論2(ヘクシャー=オリーン・モデルとその後の展開)																	
4 国際貿易の基礎理論3(新貿易理論と新々貿易理論)																	
5 国際貿易理論の歴史的展開																	
6 国際貿易理論の現実的展開																	
7 国際貿易理論の応用・活用方法																	
8 国際貿易と国際投資																	
9 国際収支																	
10 為替レートと国際貿易																	
11 国際貿易統計の分析方法																	
12 国際経済統計の分析方法																	
13 国際貿易システム																	
14 受講者の事例研究報告																	
15 まとめ																	
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	課題図書を読みながら自分自身の疑問を自分で調べ、発表することで理解を深めています。						工そ 夫の 他の の	学生同士の発表・質疑応答を通じて、説明力も養成していきます。								
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修		課題図書を事前に理解しながら読んでくること(20h)													
		事後学修		授業中の疑問点を自分で調べ、次回以降の質問項目や議論に備えること(25h)													
		想定時間合計		45													
教科書		第1回目の授業で指示します。															
参考書		必要に応じて紹介します。															

成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	平常点	60%										
	レポート	40%										

  

注意事項	・受講者の発表を中心に授業を進めます。
備考	
リンク	<a href="#">URL</a>

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式							
KE401205		国際金融論特研 (International Finance Advanced Research II)															
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	1.2	経済学研究科 博士前期	前期	月4	日本語			単独							
担当教員	氏名 小笠原 悟  E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713																
	授業の概要 金融のグローバル化や自由化が進む中で、金融市場の安定性が損なわれたり、一国の金融危機が他国へ伝播するなど、現代の国際金融通貨システムが抱える問題点が浮き彫りになってきている。本講義では、国際金融の上中級レベルの文献（英語の文献を含む）を読みながら、国際金融通貨システムの諸問題を理解する。																
具体的な到達目標																	
DP等の対応(別表参照)											1	2	3	4	5	6	7
目標1 近年の国際通貨システムの問題点を理解する																	
目標2 金融関連の統計データを読めるようにする																	
目標3 国際金融に関する課題について批判的に検討する																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)											5	2	3				
授業の内容																	
1 ガイダンス																	
2 グローバル化のベネフィットとコスト・リスク																	
3 アジア通貨危機																	
4 世界金融危機																	
5 欧州債務危機																	
6 金融グローバル化の推進役																	
7 金融グローバル化のリスクへの対応																	
8 金融セクターの使命																	
9 小論文中間報告																	
10 国際機関（IMF, BIS, FRB, 日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
11 国際機関（IMF, BIS, FRB, 日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
12 国際機関（IMF, BIS, FRB, 日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
13 国際機関（IMF, BIS, FRB, 日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
14 国際機関（IMF, BIS, FRB, 日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
15 小論文最終報告																	
ラ イ ニ ン グ ア ク テ ィ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	上記2~8まで学んだ上で国際金融に関わるテーマで小論文を執筆し、発表します。						工そ 夫の 他の の									
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修		配布資料を読んで、内容について理解しておく必要があります(30h)。													
		事後学修		授業での学びを生かし、小論文を作成します(15h)。													
		想定時間合計		45													
教科書		荒巻健二『金融グローバル化のリスク』日本経済新聞社 2018年															
参考書		授業中に指示します。															



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式									
		多言語共生社会特研Ⅰ (Multilingualistic Symbiotic Societies Research I)								対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態										
選択		2	1.2	経済学研究科 博士前期	前期	月6	日本語		単独										
担当教員	氏名 包聯群 E-mail blianqun@oita-u.ac.jp 内線 7724																		
	授業の概要 本特研では、「多文化共生社会」(2006年)の実現「理念」の視点から、多言語多文化社会とは何かを学び、それらを理解することによって、異文化への理解を深め、コミュニケーション能力を向上し、多様な研究実践活動、特に多言語サービスなどを通して、地域社会に貢献できることを目指す。																		
具体的な到達目標																			
DP等の対応(別表参照)												1	2	3	4	5	6	7	
目標1	「多言語多文化共生社会」とは何かを理解すること。																		
目標2	多言語と異文化社会を理解すること。																		
目標3	コミュニケーション能力を向上できること。																		
目標4	どのような実践活動ができるかを学ぶ。																		
目標5	地域社会に貢献できる力を身に付くこと。																		
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度(計10)												6	2	2					
授業の内容																			
1	ガイダンス																		
2	「多言語多文化共生社会」とは何か																		
3	多言語社会日本ーその現状と課題																		
4	多言語使用状況																		
5	国語と日本語政策																		
6	多言語政策ー複数の言語の共存社会																		
7	多言語景観社会																		
8	(災害)多言語サービス社会																		
9	多言語支援(医療)																		
10	移民の母語教育について																		
11	多言語能力と外国語産業(ビジネス)																		
12	言語福祉という視点から																		
13	言語意識とコミュニケーション																		
14	多言語コミュニティ																		
15	まとめ																		
ラ イ ニ グ ア ク テ ィ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の内容を事前に予習し、関連書籍、論文を読むことによって、授業で学ぶ知識を定着させる。また、授業にてディスカッションを行い、意見交換をし、応用に向けて知識の共有を実現し、新たなアイディアの創出に努めることにする。						工 そ 夫 の 他 の	授業の後、関連内容について調べて、閲覧しておくこと。また、積極的に発言できる機会を与えること。										
授業時間外 学修の内容 と想定時間		関連課題を予習すること。(2~3時間程度) 準備学修																	
		関連課題を復習すること。(2~3時間程度) 事後学修																	
		想定時間合計		45															
教科書		1.『多言語社会日本 その現状と課題』。多言語化現象研究会編、2013年、三元社。2.その他(資料配布)。																	
参考書		1.『多言語社会がやってきた』(世界言語政策Q&A)。河原俊昭/山本忠行編、2004年、くろしお出版。 2.『世界の言語政策 第3集 ー多言語社会を生きるー』。山本忠行/河原俊昭編、2010年、くろしお出版。																	



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】 / (分野)		授業形式				
KE40I210		EU政治経済論特研 (The Europeanization of the EU Economy Advanced Research II)												
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態				
選択		2	1.2	経済学研究科 博士前期	後期	火3	英語			単独				
担当教員	氏名 デイ スティーブン E-mail srday@oita-u.ac.jp 内線 6676													
授業の概要	This module examines aspects of the institutional development of the European Union (EU) against the backdrop of Brexit and the rise of populism. In so doing, it will: 1) highlight the evolution of key EU institutions and the role that they play within the EU institutional architecture. 2) assess the nature of the relationship between the EU and the Member States. 3) ask in which direction is the EU in the wake of Brexit and electoral rise of populist political forces. The situation of the UK post-Brexit will also be scrutinized.													
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1 Develop an awareness and understanding of the European Union and the UK														
目標2 Ability to comment on the process of European integration/disintegration in a critical and cogent manner														
目標3 Build the necessary confidence to engage with and analyze historical and contemporary events														
目標4 Recognize the contested nature that accompanies opinions about EU integration and Brexit														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								4	3	3				
授業の内容														
1 Introductory overview														
2 An historical overview of the origins of the EU (1950-1992)														
3 The development of the EU since the Maastricht Treaty														
4 EU institutions - the European Commission and the ECJ														
5 EU institutions - the European Council and Council of the EU														
6 EU institutions - the European Parliament														
7 European Parliament elections														
8 Understanding populism - some conceptual insights														
9 Does the rise of populist political forces pose an existential crisis for the EU?														
10 The European Union and the UK - an historical and contemporary perspective														
11 Why Brexit? Reviewing the referendum campaign														
12 Understanding the process of Brexit - The era of PM May and PM Johnson														
13 Thinking about the impact of Brexit - economics and politics														
14 Thinking about the impact of Brexit - territorial issues and the future of the UK														
15 Where next for EU-UK relations?														
ラ イ ニ シ ゲ	ア ク テ シ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.						工 そ 夫 の 他 の					
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修	30 hours - In order to consolidate the class-based material read specific chapters from the text book or newspaper/magazine article that will be provided in class											
		事後学修	15 hours - Reflect on the issues raised in the class discussion by writing a brief academic diary to be presented at the next class. Work towards researching, structuring and writing the assigned essay											
		想定時間合計	45											
教科書	『「ブレギット」という激震 混迷するイギリス政治』スティーブン・デイ・力久昌幸 共著 2021年, ミネルヴァ書房. ISBN: 4623090639.													
参考書	Journal of Common Market Studies													



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式						
KE40I209		EU政治経済論特研 (The Europeanization of the EU Economy Advanced Research I)								対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	火7	英語			単独						
担当教員	氏名 デイ スティーブン E-mail srday@oita-u.ac.jp 内線 6676															
授業の概要	The goal of this module is to provide an insight into the dynamics associated with the historical and contemporary development of the European Union and the processes of integration. The main focus will be upon key events and actors that have been responsible for driving political and economic integration. In addition, we will take a look at the evolution of some of the theoretical ideas that have accompanied the EU story.															
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1		Develop an awareness and understanding of the EU														
目標2		Ability to comment on the process of European integration/disintegration in a critical and cogent manner														
目標3		Build the necessary confidence to engage with and analyze events														
目標4		Think theoretically and conceptually about EU politics and economics														
目標5		Recognize the contested nature that accompanies the process of EU integration														
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10								各DPへの関連度(計10)		4	3	3				
授業の内容																
1 Introductory overview																
2 What is the EU?																
3 The EU in the 2020s - The political situation across the member states																
4 The EU in the 2020s - Key issues affecting the EU																
5 Historical dimension - Calls for European integration prior to 1945																
6 Historical dimension -The Schuman Plan and the European Coal and Steel Community (ECSC)																
7 From the European Economic Community (EEC) to the European Union (EU)																
8 EU Law and Integration																
9 EU Enlargement - from 6 to 28																
10 Theoretical and Conceptual Overview of European Integration																
11 Federalism and functionalism																
12 Neo-functionalism and supranationalism																
13 Liberal intergovernmentalism																
14 'New' liberal intergovernmentalism																
15 The future of the EU: integration, differentiated integration or disintegration?																
ラ イ ニ シ ゲ	ア ク テ シ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	There will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating and deconstructing a wide range of media reports.						工 そ 夫 の 他 の							
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修		30 hours - In order to consolidate the class-based material read specific chapters from the text book as well as a number of newspaper articles that will be provided in class.												
		事後学修		15 hours - Reflect on the issues raised in the class discussion by writing a brief academic diary to be presented at the next class. Work towards researching, structuring and writing the assigned essay.												
		想定時間合計		45												
教科書	Hubert Zimmermann and Andreas Duer (eds.) Key Controversies in European Integration, Palgrave 2021 (Third Edition). ISBN: 1352011980.															
参考書	Journal of Common Market Studies. Additional material will be distributed during the module															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	Essay	50%										
	Class-based exercises	50%										

  

注意事項	The determination to study the European Union (EU), in English, and a willingness to participate in classroom based activities	
備考	A willingness to engage in critical thinking as we make use of a plethora of different source material: newspaper, academic journals, video and web-based material etc.	
リンク	<table border="1"> <tr> <td>URL</td> </tr> </table>	URL
URL		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式								
KE401206		証券市場論特研 (Securities Market Advanced Research II)																
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	1,2	経済学研究科 博士前期	後期	水2	日本語			単独								
担当教員	氏名 金 珍 奎 E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690																	
授業の概要	本授業は、日本と中国の株式市場を対象にし、その現状と比較分析を行う。																	
具体的な到達目標																		
DP等の対応(別表参照)											1	2	3	4	5	6	7	
目標1	日本と中国の株式市場の現状を把握・分析できるようになる。																	
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)											4	3	3					
授業の内容																		
1	日本株式市場の発展過程																	
2	中国株式市場の歴史																	
3	日本と中国の株式市場の現状																	
4	日本と中国の株式市場の監督体制																	
5	日本と中国の機関投資家																	
6	日本と中国の株式市場改革について																	
7	日本と中国の債権市場																	
8	QFIIについて																	
9	QDIIについて																	
10	中国の投資信託																	
11	日本の投資信託																	
12	中国の外国人投資家																	
13	日本の外国人投資																	
14	日本と中国の証券会社																	
15	総まとめ																	
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	発表と議論を積極的に行う。						工そ 夫の 他の の										
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修		テキストの発表準備をする(25h)。														
		事後学修		学習内容の復習を行う(20h)。														
		想定時間合計		45														
教科書		日本証券経済研究所『図説日本の証券市場』最新版																
参考書		日本証券経済研究所『アジアの証券市場』最新版																



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式				
KE201201		開発経済論特研 (Development Economics Advanced Research)								対面				
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
コア科目		2		経済学研究科 博士前期	前期	木7	日本語	英語	単独					
担当教員	氏名 木村 雄一 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689													
授業の概要	農村低所得地域での貧困削減プロジェクトに対しての評価を可能にするため、農業家計の行動、所得向上についての理論・実証分析のフレームワークを学ぶ。													
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)						
目標1	各箇所の論点を把握し、述べることができること。							1	2	3	4	5	6	7
目標2	諸問題が起きるメカニズムを理解すること。													
目標3	原因の理解の上に立ち、政策案を考えることができること。													
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								4	6					
授業の内容														
1	本科目の動機付けについて													
2	序章 途上国の貧困・脆弱性問題													
3	第1部 貧困の経済分析の基本													
4	1 貧困の概念と計測													
5	2 家計レベルの所得貧困の決定要因													
6	3 経済成長、不平等、貧困のトライアングル													
7	4 貧困削減政策の評価													
8	第2部 貧困・脆弱性の動学的ミクロ分析													
9	5 経済階層移動と脆弱性の概念													
10	6 不確実性下の動学家計モデルに基づく貧困・脆弱性分析													
11	7 脆弱性の諸指標													
12	8 貧困の一時的要因と慢性的要因への分解													
13	9 所得ショックに対する消費の「過度の反応」													
14	10 途上国の貧困・脆弱性分析の今後													
15	まとめの議論、論点の整理													
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回のマテリアルをもとに予習して論点を把握した上で参加し、議論を行う。						工そ 夫の 他の の						
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修		予習(マテリアルを読む) 45h										
		事後学修		論点の整理と理解 15h										
		想定時間合計		60										
教科書		論題に合わせて用意されるリーディングリストまたは書籍。												
参考書		東アジアや世界各国の、ミクロの論題：家計の厚生貧困削減、マクロの論題：国家形成・制度形成と政治、経済成長・貧困削減に関わる論題を選ぶ。 論題の選択に合わせてリーディングリストを用意するので、毎回事前学習し、議論する。												



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式				
KE40I219		多文化共生社会特研 (Advanced Research on Multiculturalism)								対面				
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態				
選択		2	1.2	経済学研究科 博士前期	後期	木7	日本語	英語		単独				
担当教員の概要	氏名 久保田亮 E-mail yuralria@oita-u.ac.jp 内線 7730													
	グローバル化が進展する現代世界において、わたしたちが生活する地域社会や職場・教育環境も着実に多文化化・多民族化しています。また、そうした現状のなかで「多文化共生」ということをキーワードとする、社会問題の解決に向けた取り組みが様々なレベルで実施されています。以上の点を踏まえ、この授業では次の3点を学習する機会を提供します。 多文化化・多民族化する日本社会の現状と対応を多角的に理解すること、 多文化共生と各自の専門領域のつながりについての理解を深めること、 ディスカッション、プレゼンテーション、論文執筆など、多文化化が進展する社会環境・職場教育環境を生き抜いていくためのコミュニケーション力を身につけること。													
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1 授業で学習した概念・事例について正確かつ詳細な説明ができる。														
目標2 現代日本の地域社会や教育・職場環境の多文化化および多民族化の状況とそれが生み出す諸問題について理解する。														
目標3 多文化共生という概念について説明ができる。														
目標4 ディスカッション、プレゼンテーション、資料収集、論文執筆など、多文化的環境で特に必要とされる知識や技法を身につける。														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								4	2	4				
授業の内容														
1 ガイダンス(授業概要、単位認定基準、スケジュールの説明)														
2 ディスカッションの技法														
3 グループディスカッション(1)														
4 プレゼン・論文執筆の技法(1)														
5 プレゼン・論文執筆の技法(2)														
6 多文化共生の意味とその実態(1)														
7 多文化共生の意味とその実態(2)														
8 グループディスカッション(2)														
9 多文化化する地域社会														
10 多文化化する職場・教育環境														
11 グループディスカッション(3)														
12 日本社会の多民族化(1)														
13 日本社会の多民族化(2)														
14 日本社会の多民族化(3)														
15 グループディスカッション(4)														
ラ イ ク ニ テ シ イ ゲ ブ	A:知識の定着・確認  B:意見の表現・交換  C:応用志向  D:知識の活用・創造	授業では複数回、授業内容に関するグループディスカッションを実施します。議論に必要な文献涉獓を事前に行うことを推奨します。						工 そ 夫 の 他 の	授業で用いる資料配布、課題の提出、連絡事項の周知などにMoodleを使用します。					
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		配布資料、参考文献に対して目を通し、予習する。講義において議論すべきトピックについて調査し、発言の準備を整える(30h)。											
	事後学修		ノートなどを利用して、授業での学習成果についての確認作業を行う。配布資料、ノート、参考文献を用いて、講義内容と自身の研究との接点について復習する(15h)											
	想定時間合計			45										
教科書	教科書は指定しませんが、必要に応じて授業内で指示します。													
参考書	授業中に適宜紹介し、必要に応じて配布します。													



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式		
KE201203		証券市場論特研 (Securities Market Advanced Research!)								対面		
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態		
コア科目		2	1.2	経済学研究科 博士前期	前期	金2	日本語			単独		
担当教員	氏名 金 珍 奎  E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690											
授業の概要	本授業では、証券市場の様々な問題を取り上げ、国民経済と証券市場の関係について学習します。 株式・債券市場の分析に重点を置きつつ、投資信託やデリバティブなどについても学習します。											
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) 1 2 3 4 5 6 7												
目標1	証券市場の仕組みと機能がわかるようになる。											
目標2	アジアの証券市場をはじめ、世界の証券市場の現状と課題を把握できるようになる。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10) 5 5												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	株式投資の二大流派											
3	株式市場のバブルについて											
4	アメリカの株式市場											
5	アメリカの株式市場											
6	ファンダメンタル分析											
7	ファンダメンタル分析											
8	テクニカル分析											
9	テクニカル分析											
10	証券投資理論											
11	証券投資理論											
12	世界の株式市場について											
13	韓国の株式市場について											
14	中国の株式市場について											
15	総まとめ											
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	参加学生の発表をつうじ、学習内容を確認する。また、質疑応答や議論をつうじ、意見を交換するとともに、プレゼンーションのスキルを向上させる。						工そ 夫の 他の の				
授業時間外 学修の内容 と想定時間		テキストの発表準備をする(25h)。										
		準備学修										
		事後学修 学習内容の復習を行う(20h)。										
想定時間合計		45										
教科書		バートン マルキール(著), 井手 正介(翻訳) 『ウォール街のランダム・ウォーカー』日本経済新聞社、最新版。										
参考書		1. 川北英隆 『テキスト株式・債券投資』中央経済社、2006年。 2. 『証券投資の思想革命』東洋経済新報社、2006年。 ピーター・L. バーンスタイン(著), 青山 謙, 山口 勝業(翻訳)										



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式				
KE401204		国際金融論特研 (International Finance Advanced Research I)								対面				
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
コア科目		2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	金6	日本語		単独					
担当教員	氏名 小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713													
	授業の概要 本講義では、学部レベルの国際金融の基礎的な理論を学び、国際金融の制度、歴史、現状について理解できるようにすることが狙いです。													
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)						
目標1	基礎理論をベースに国際金融の現状を理解する							1	2	3	4	5	6	7
目標2	自ら課題を見つけ、調査報告できる													
目標3														
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								5	5					
授業の内容														
1	国際収支と為替相場													
2	経常収支と国際貸借													
3	国際経済におけるマクロ経済政策													
4	国際金融のトリレンマ													
5	マクロ経済政策の国際協調													
6	為替相場の決定要因													
7	為替相場決定モデル													
8	小論文中間報告													
9	為替介入と外貨準備													
10	通貨統合と最適通貨圏の理論													
11	国際通貨体制													
12	通貨危機の類型とその応用													
13	国際金融アーキテクチャー													
14	まとめ													
15	小論文発表													
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	国際金融に関わるテーマで小論文を作成、発表します。						工そ 夫の 他の の						
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修		担当以外の学生も予習としてテキストを下にレジメを作成していただきます(30h)。										
		事後学修		授業での学びを生かし、小論文を作成の準備をします(15h)。										
		想定時間合計		45										
教科書		特に指定しません。												
参考書		小川英治/岡野衛士『<サビエンティア>国際金融』東洋経済新報社 2016年 P.R.クルーグマン、M.オブスフェルド『国際経済学 - 理論と政策下 金融編』原著第10版 丸善出版 平成29年 授業中にも適宜指示します。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レジメの提出	25%										
	授業での貢献	25%										
	小論文	50%										

  

注意事項	各自作成したレジメは授業終了後Moodleから提出していただきます。
備考	無断欠席は厳禁です。 受講生のパックグラウンドや授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。 新型コロナ感染拡大の状況によってはオンライン授業となります。
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	
教員の実務経験	エコノミスト、為替ストラテジスト
実務経験をいかした教外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。	教育内容

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式				
KE40I217		西洋経済史特研 (Economic History of western Europe Advanced Research I)								対面				
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態				
選択		2	1、 2	経済学研究科 博士前期	前期	金6	日本語	英語		単独				
担当教員	氏名 城戸 照子 E-mail tkido@oita-u.ac.jp 内線 7946													
	授業の概要 ヨーロッパの前近代 = 封建社会、中世と近世の社会経済構造を、貨幣と銀の流れの観点から解明する。													
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)						
目標1 西洋の前近代社会の歴史の知識を増やす 目標2 ヨーロッパの商業と貨幣について、知識を深める 目標3 西洋前近代社会の造幣に関する金属加工業や鉱業の在り方を知る 目標4 日本語テキストでヨーロッパの近世から近代の歴史の流れをみる 目標5 英語のテキストを読むことに慣れる 目標6 目標7 目標8 目標9 目標10								1	2	3	4	5	6	7
各DPへの関連度(計10)								8	2					
授業の内容														
1 前近代西洋の、中世と近世の歴史のアウトラインを知る 2 中世のヨーロッパとイスラームの関係を知る 3 16世紀ヨーロッパへの銀の流入と「価格革命」を知る 4 近世におけるヨーロッパ・アメリカ・アジアの銀の流れを検討する 5 中国の銀貨について知る 6 日本の銀輸出がグローバル・エコノミーにどのようにリンクしたか、考える 7 決済手段としての貨幣の形と銀のインゴットやバーの形での決済を知る 8 オーストリアのターラー大型銀貨から、アメリカ大陸のダラー(ドル)へ 9 北アメリカ大陸でのスペイン・ピアストル銀貨の普及を知る 10 英語テキストから、近世ヨーロッパの銀貨のアメリカへの進出を知る(1)イタリア半島の場合 11 英語テキストから、近世ヨーロッパの銀貨のアメリカへの進出を知る(2)スペイン「帝国」の場合 12 英語テキストから、近世ヨーロッパの銀貨のアメリカへの進出を知る(3)オーストリア「帝国」の場合 13 貴金属貨幣と「信用」の発明(1) 14 貴金属貨幣と「信用」の発明(2) 15 市場の成立に不可欠の決済手段としての「貨幣」を問い合わせ直す														
ラ イ ニ シ グ	A:知識の定着・確認	英語テキストを予習して日本語に訳す練習をする。それを土台として相互に討論の練習をする。また英文テキストに慣れるまで、日本語でのテキストによって基礎知識と基本タームの定義を得る。				工そ 夫の 他の の								
	B:意見の表現・交換													
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		日本語テキストで、歴史の流れを抑えておく(15h)。英文テキストの予習とキーワードの選定をする(15h)。											
	事後学修		英文テキストの和訳の作成(15h)											
	想定時間合計		45											
教科書	日本語テキストは、近藤和彦(2018)『近世ヨーロッパ』(世界史リブレット)山川出版社、ISBN463349523。および、岸本美緒(2019)『1571年 銀の大流通と国家統合(歴史の転換期)』(歴史の転換点)山川出版社、ISBN4634445069。 英文テキストは、Italy and Early Medieval Europe. Papers for Chris Wickham. Oxford, University Press, 2018													
	講義中に指定する。													
参考書														



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式								
KE201200		国際経済論特研 (International Economics Advanced Research)								対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
コア科目		2	1.2	経済学研究科 博士前期	前期	金7	日本語		単独									
担当教員	氏名 柴田 茂紀 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715																	
授業の概要	理論・政策・歴史など幅広い観点から、現在の「グローバル経済を見る眼」を養う。																	
具体的な到達目標																		
DP等の対応(別表参照)												1	2	3	4	5	6	7
目標1 現代に至る国際貿易システムの変遷を理解できる。																		
目標2 国際経済に関する問題点がいかに解決されてきたのか、または解決されずに残されているのか分析する。																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)												5	5					
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 世界の景気循環 (以下、テキスト)																		
3 総合商社と専門商社																		
4 世界の通商関係 (GATT・WTO体制)																		
5 世界の通商関係 (貿易協定)																		
6 世界経済前後の日本貿易																		
7 東アジアの生産ネットワーク																		
8 中間のまとめとテスト																		
9 国際貿易の基礎理論1 (絶対優位と比較優位)																		
10 国際貿易の基礎理論2 (ヘクシャー=オリーン・モデルとその後の展開)																		
11 国際貿易の理論的展開																		
12 国際経済統計の分析方法																		
13 為替レートの決定メカニズム (																		
14 受講者の事例研究報告																		
15 まとめ																		
ラ ア	A:知識の定着・確認	課題図書を読みながら自分自身の疑問を自分で調べ、発表することで理 解を深めています。						工そ 夫の 他の の	学生同士の発表・質疑応答を通じて、説明力も養成していきます。									
イ ク	B:意見の表現・交換																	
ニ テ	C:応用志向																	
ン イ	D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修		課題図書を事前に理解しながら読んでくること(20h)														
		事後学修		授業中の疑問点を自分で調べ、次回以降の質問項目や議論に備えること(25h)														
		想定時間合計		45														
教科書		第1回目の授業で指示します。																
参考書		必要に応じて紹介します。																

成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	平常点	60%										
	レポート	40%										

  

注意事項	・受講者の発表を中心に授業を進めます。
備考	
リンク	<a href="#">URL</a>